

大賞

小平陽一 <僕が家庭科教師になった訳>

1994年に、高校家庭科は女子のみの教科から男女共修に変わった。この社会の転換期に、僕は、化学から家庭科教師へと転科した。理由は二つあった。一つは、暮らしの目線から考える科学を求めて生活科学を志向したこと。もう一つは、共稼ぎで二人の子育てをするという悪戦苦闘の私生活の中で、男も女も変わりなく生活能力の必要性を痛感したからだ。家庭科の共修への背景には、75年の国連「国際婦人年」に端を発する国内外の男女平等運動の高まりがあった。そうした社会背景の中で妻から家事・育児の参加を突きつけられ、僕が「これぞ男の世界」と思い科学を志向してから、やがて「女の領域」とされていた家庭科に方向転換した自己変革の過程を振り返る。その中で、男とか女とかの固定観念にとらわれず、個が自立することの必要性、生活すること・生きる事を共にシェアする大切さ、互いの関係性を築く努力が求められると考えた。